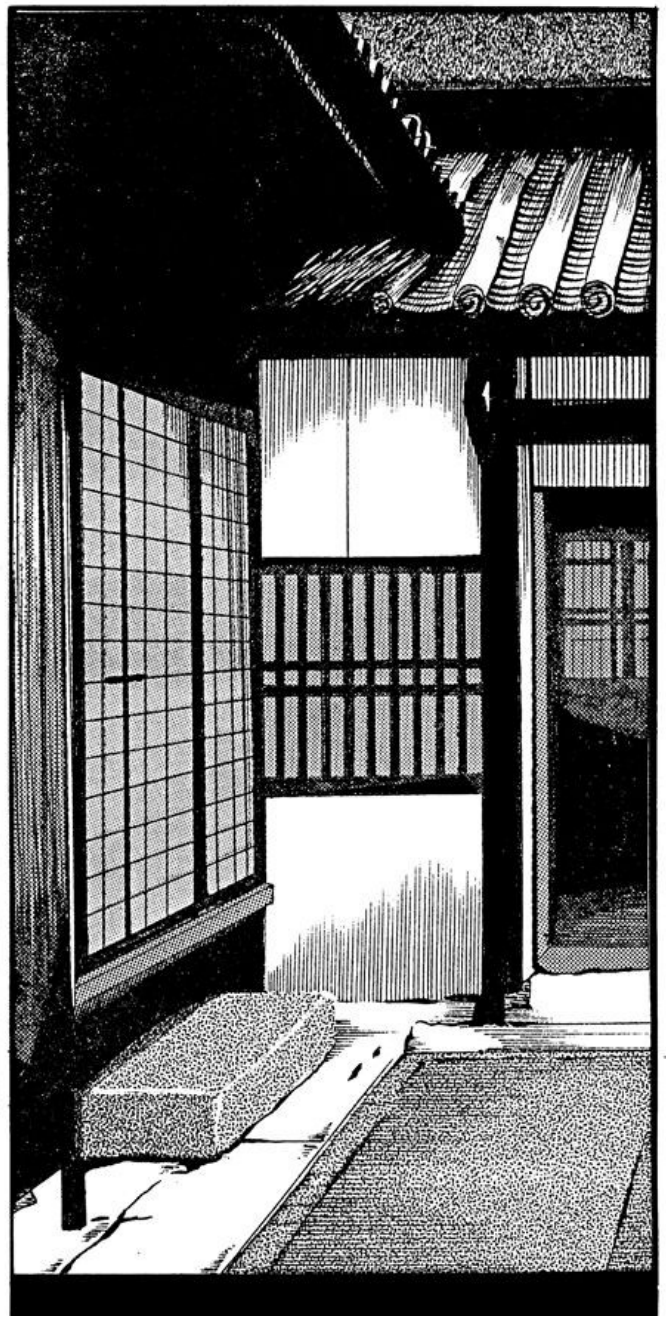
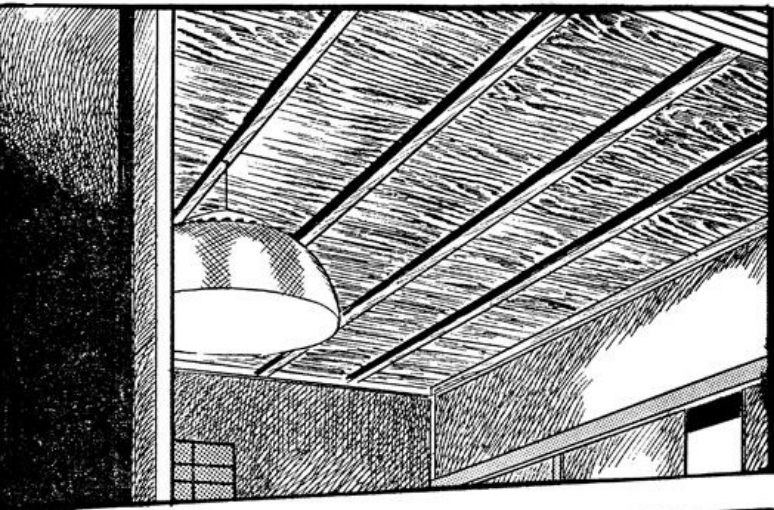
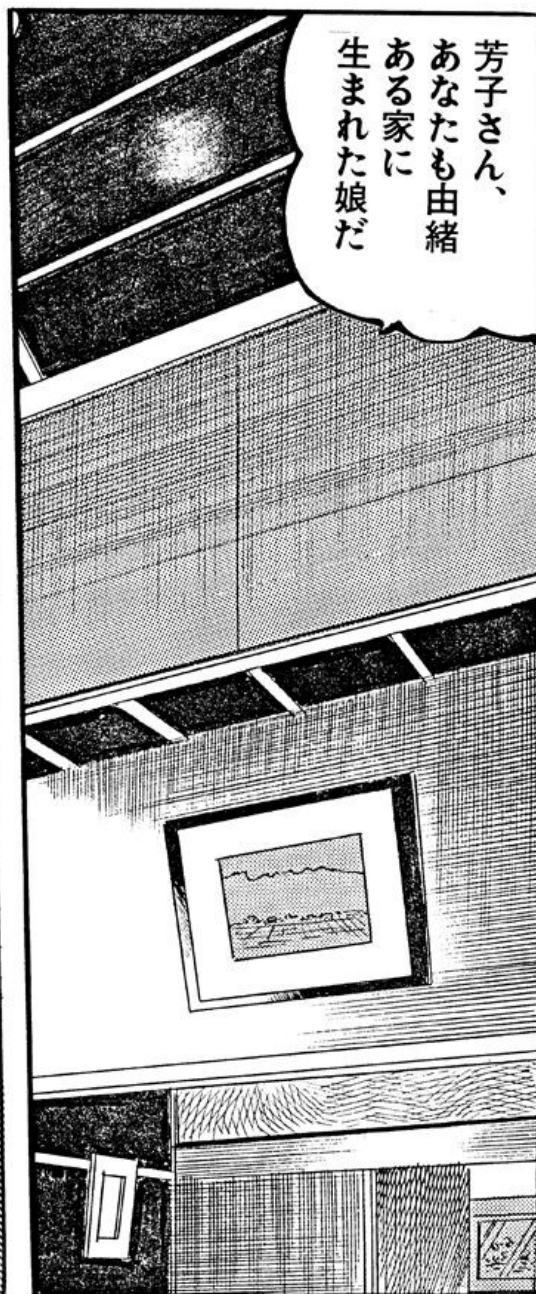


なぶりの因習



角雨和八







つまり、
あんたは夫である
達雄ひとりのもので
なく、桜沢家の
嫁だと云う事じや

わしの家内も
西の分家の
弥生さんもそれを
守ってきてる



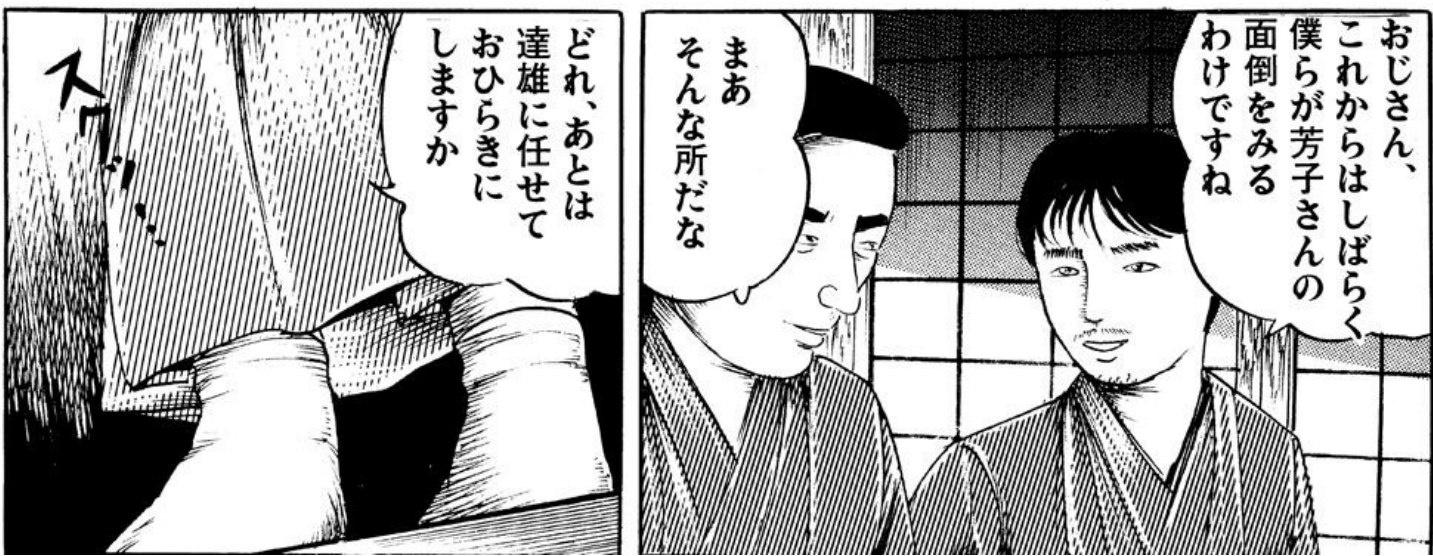
さっき、あんたの
盃を本家から
分家に
まわしたのは

わしらと
あんたがたが
お互いに契りを
固めたと云う証しだ



平助、
そこらで
よかろう

芳子には、
義父である
わしが、おいおい
教えてやるさ

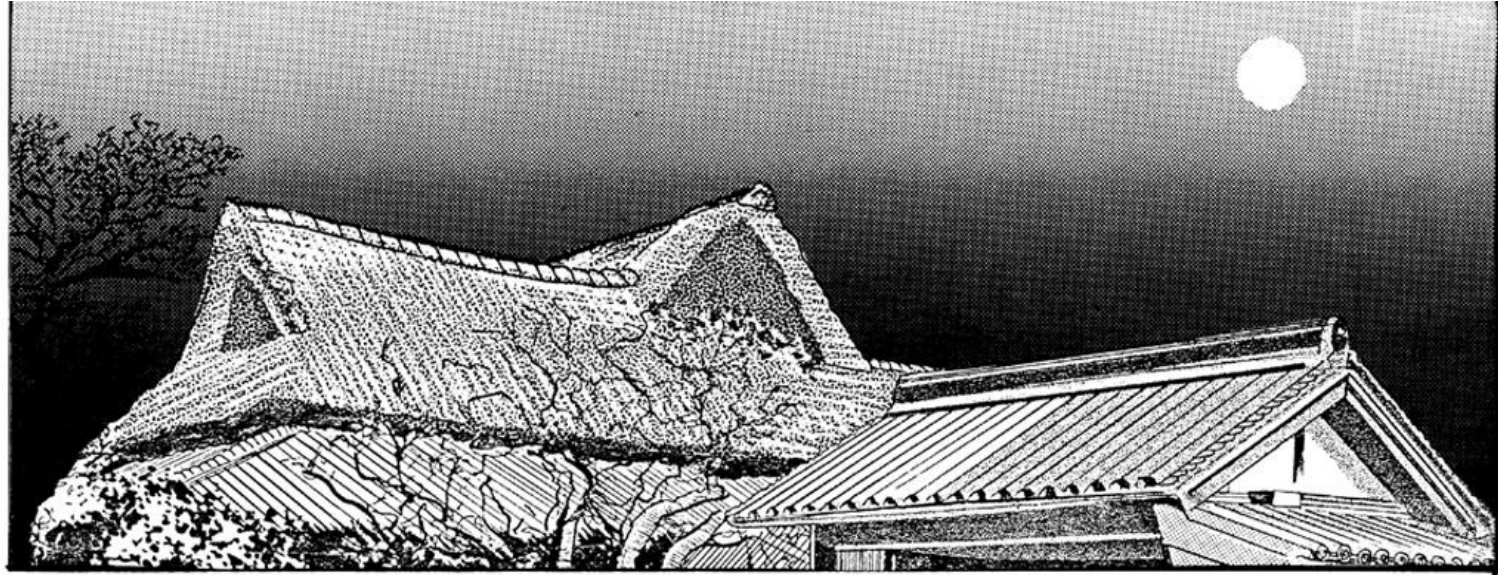


おじさん、
これからはしばらく
僕らが芳子さんの
面倒をみる
わけですね

まあ
そんな所だな

どれ、あとは
達雄に任せて
おひらきに
しますか

スト



君が聞いた通り
松本家の
嫁になった
固めの盃だよ

でも、
西の分家の
一郎兄さんは
私の面倒を
みるって言いましたわ

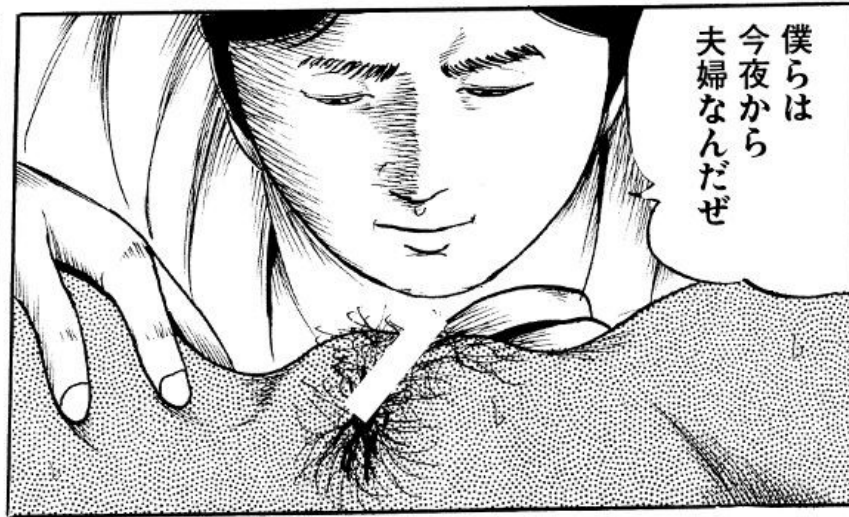


それは、
うちのさまさまな
しきたりについて
教えてくれるって
事さ



いやあっ…



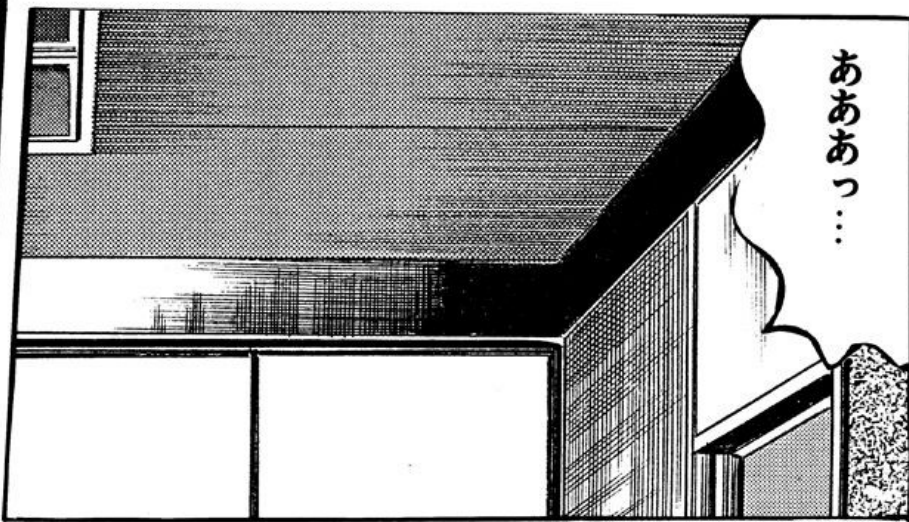
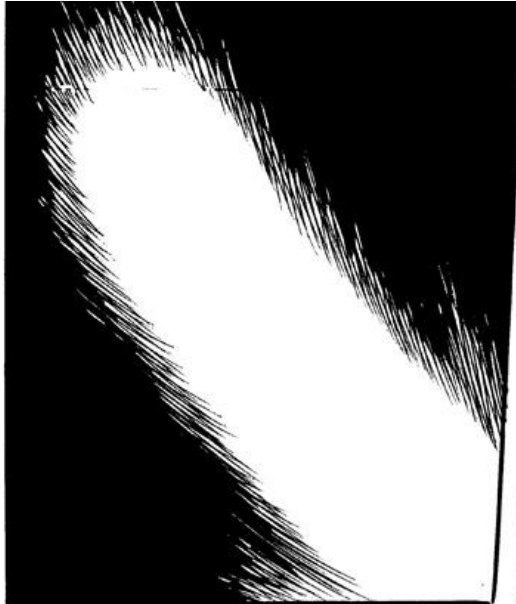




こ、こんな
格好いやっ…

俺は
芳子のすべてが
見たいんだ

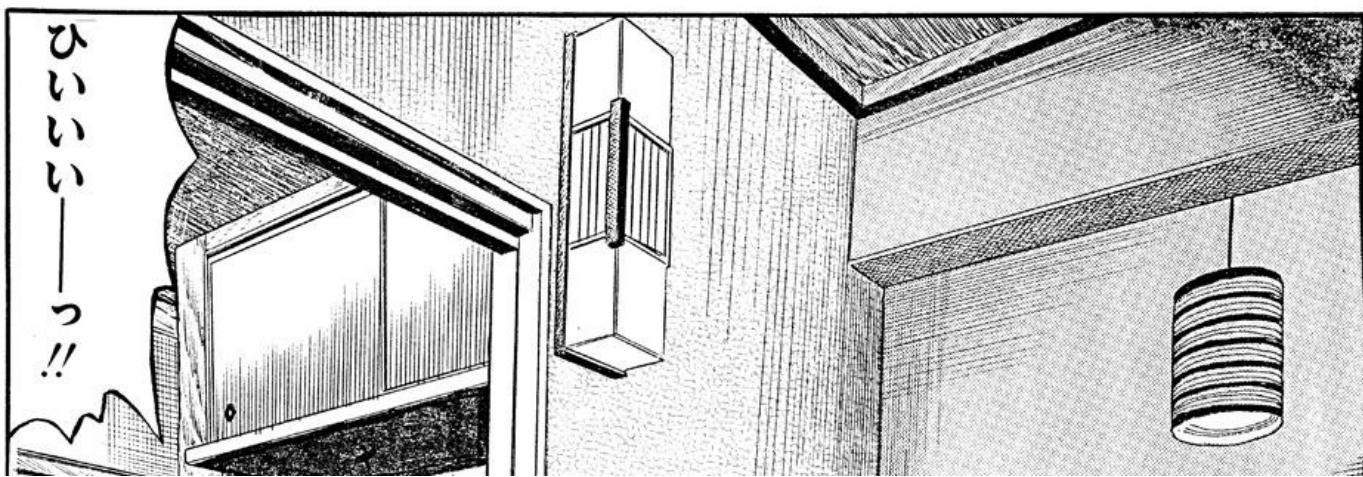
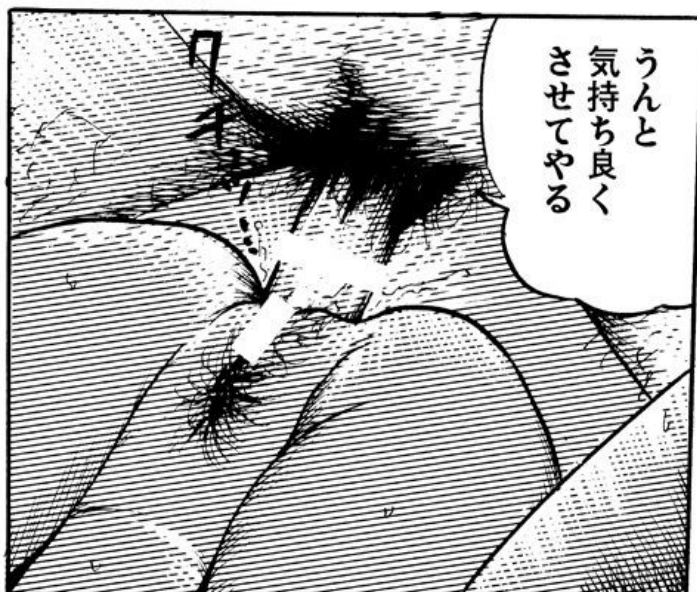




あああっ…



は…初めて
なんです…
やさしくして…







明日からの
新婚旅行が
実は花嫁蔵行き
とは、一寸、気の毒な
感じですね



インサート状態を
こちらへ向けて
サービス満点ですよ



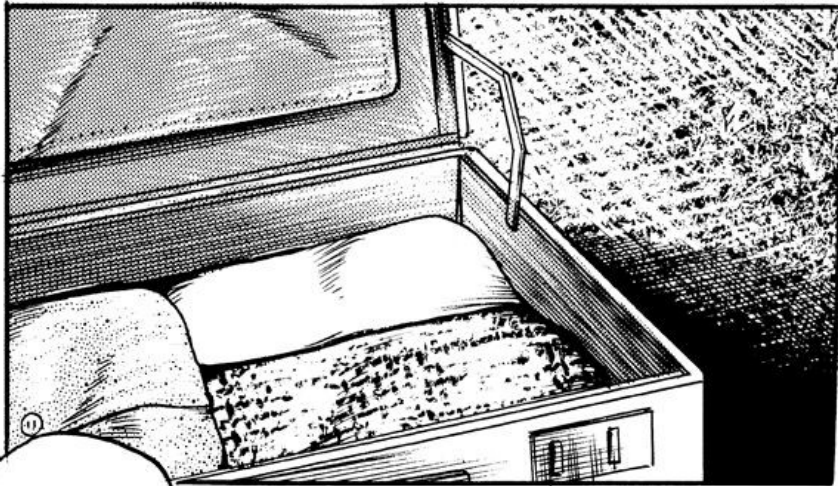
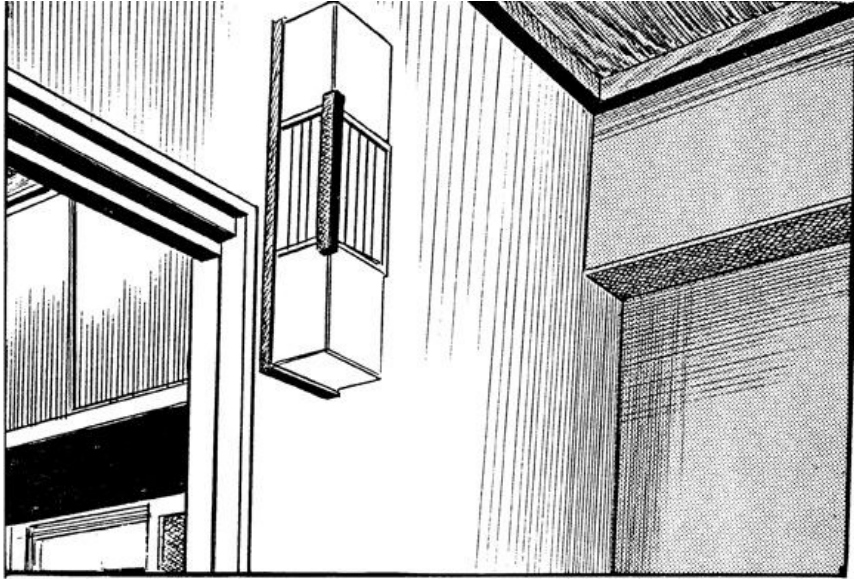
おじさん
ごらんなさい

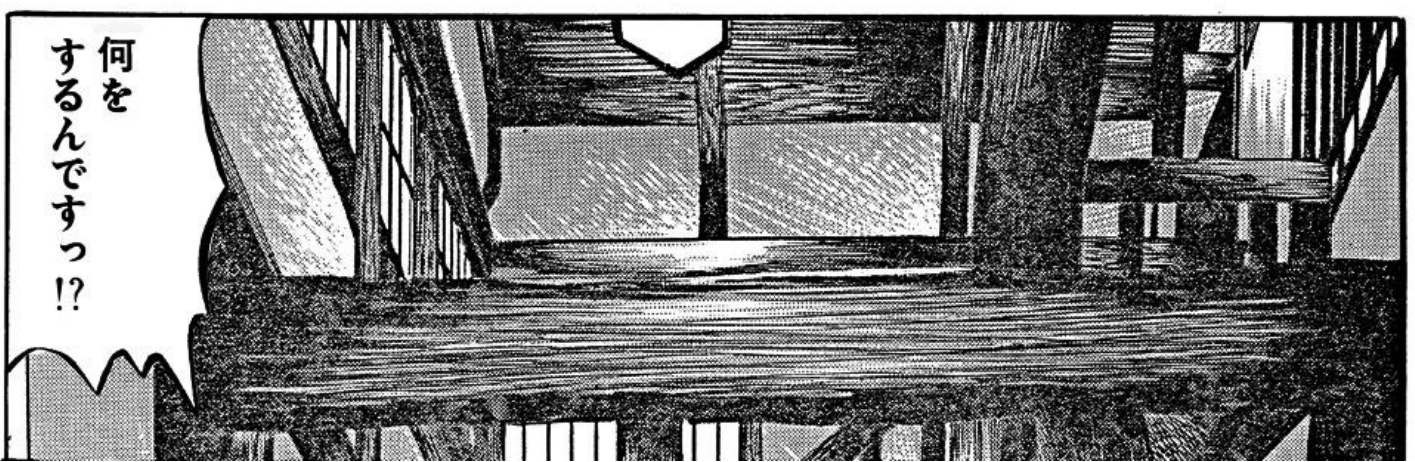


うぐぐぐ

とにかく、
わしらも大いに
若返る事が
出来るって
ものさ

桜沢家の嫁に
なった女は
馴れるまで蔵暮しを
すると決まっとるんだ

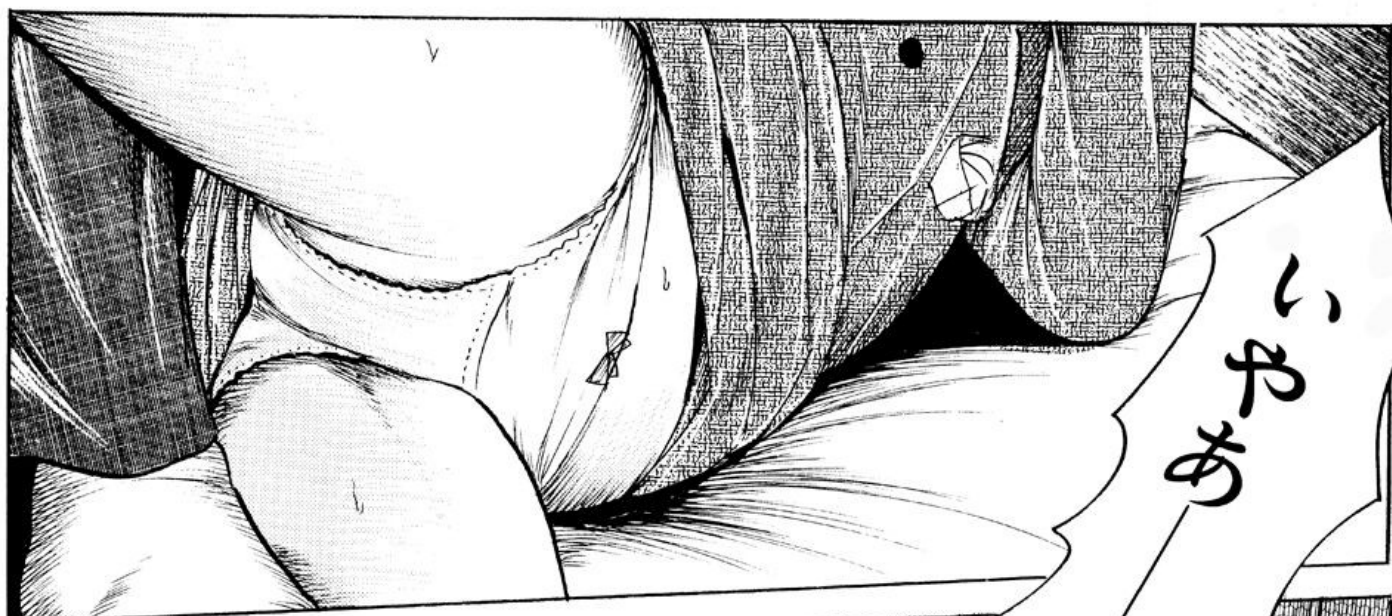
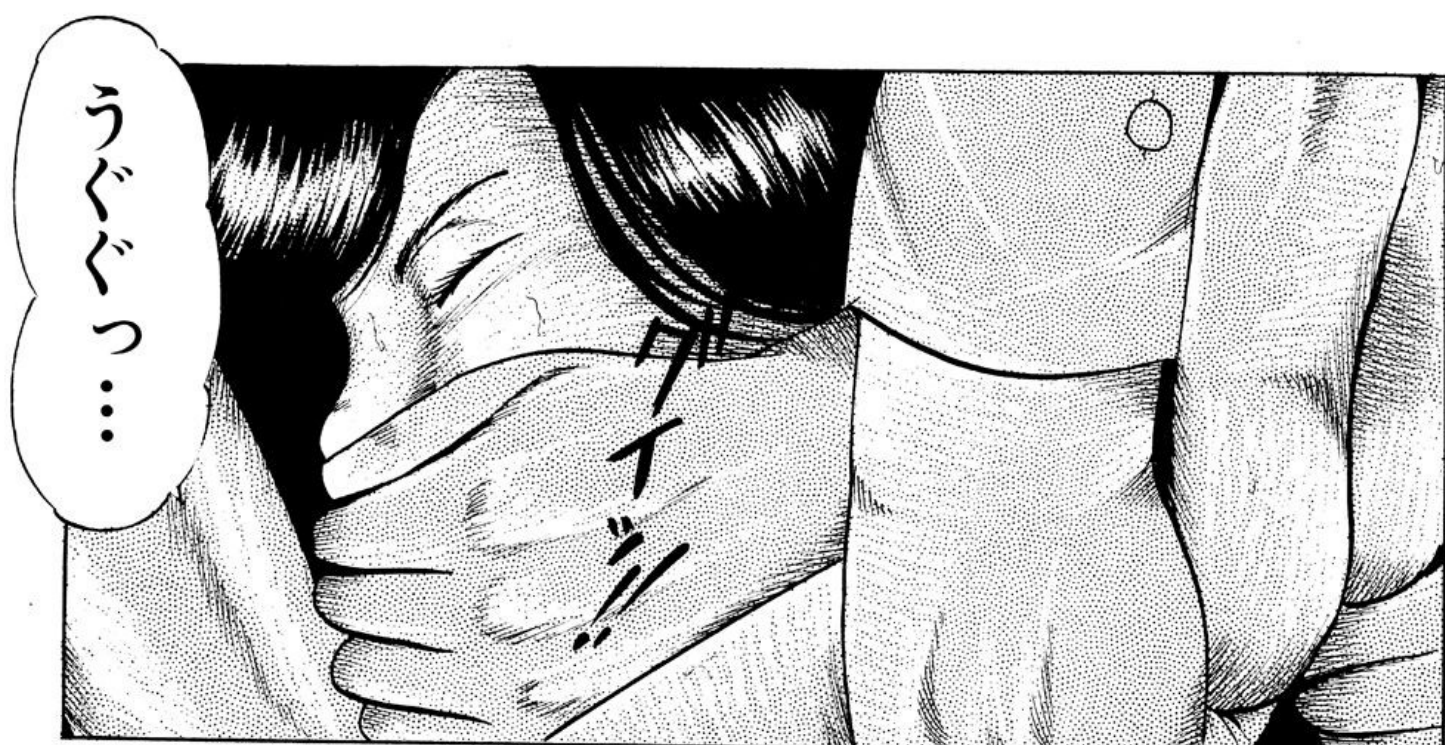




五泊六日の
新婚旅行は
この花嫁蔵で
住ごすんだ

達雄さんっ……





何故、
こんな事を
するんですっ!?

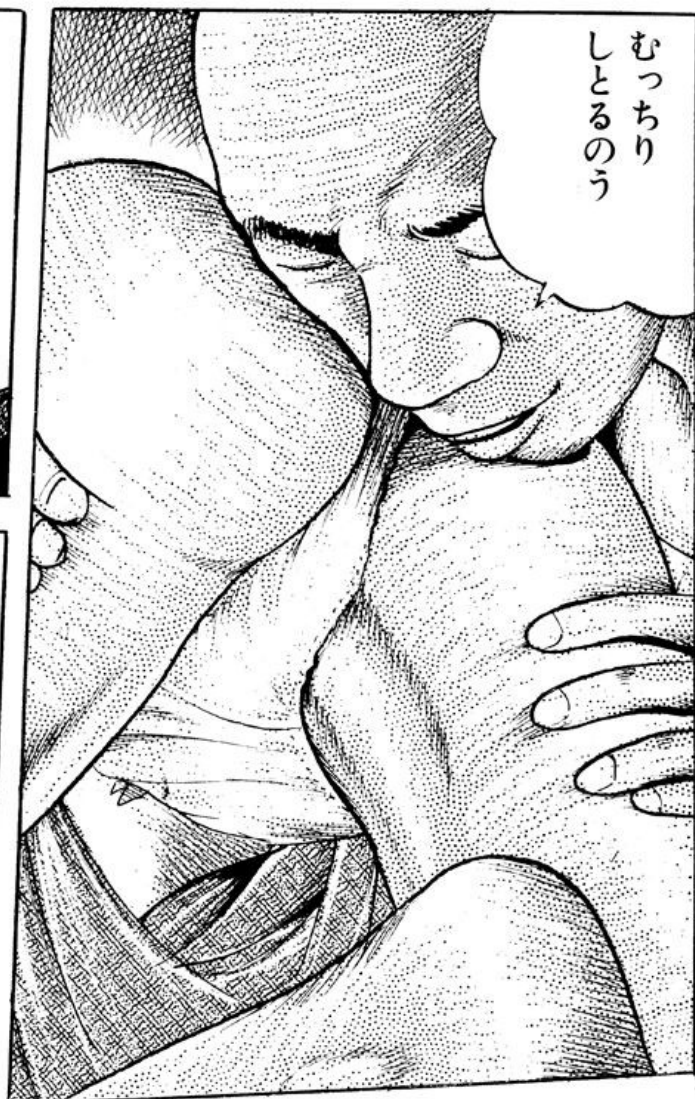
床入りの盥を
すませた時に
わしが言っただろ

お前は
達雄ひとりの
嫁ではないとな

フフフ
床入りで
見た通りだな

な、何んですって!?

むっちり
しとるのう



お伯父さまが
こんな事を
なさって
平気なのですか!?



桜沢家の
家訓ではな

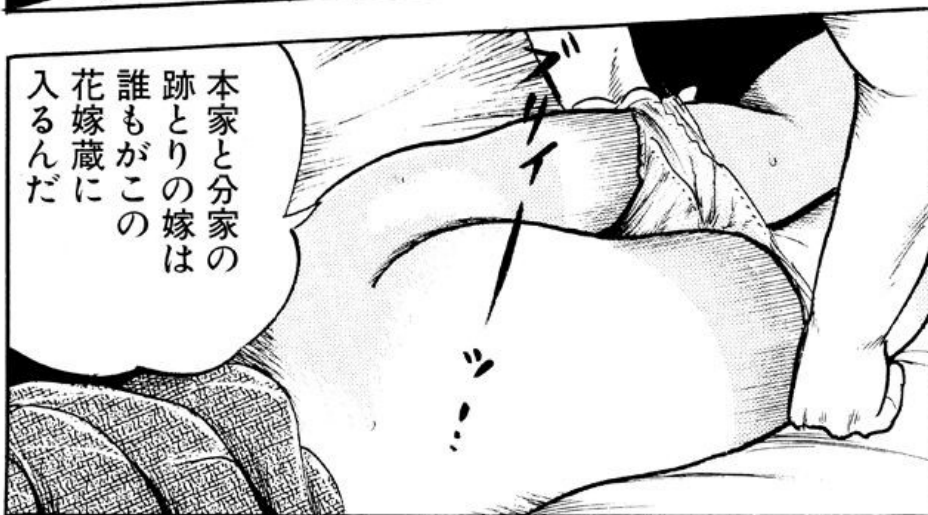
わしは、お前の
夫と云う事にも
なるんだ



脱がさないでーっ!!



本家と分家の
跡とりの嫁は
誰もがこの
花嫁蔵に
入るんだ



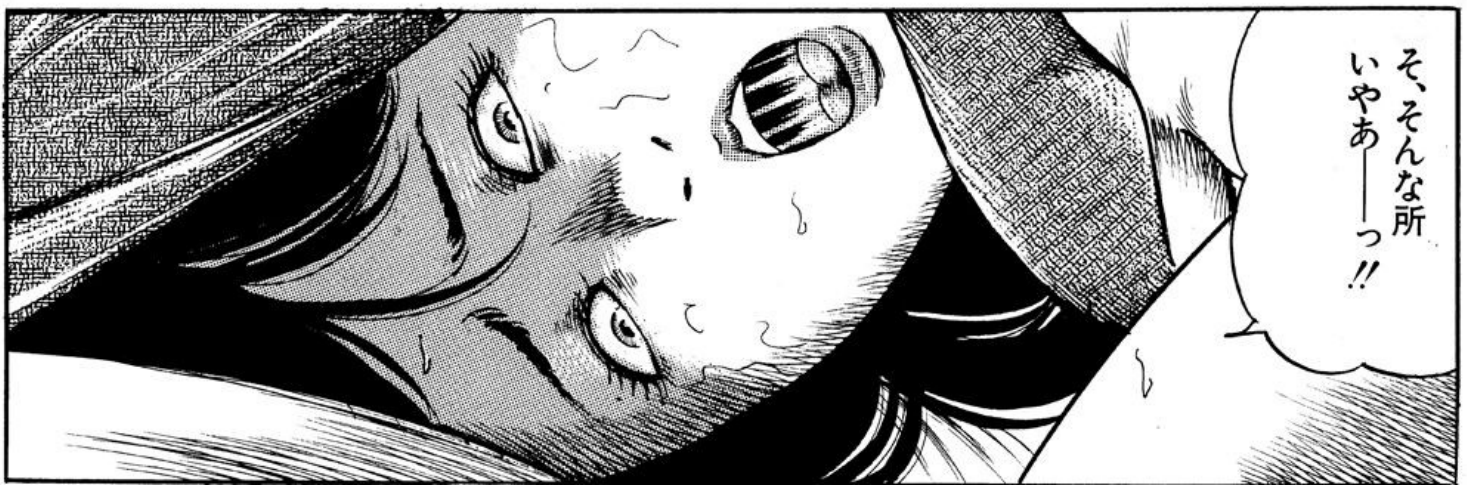
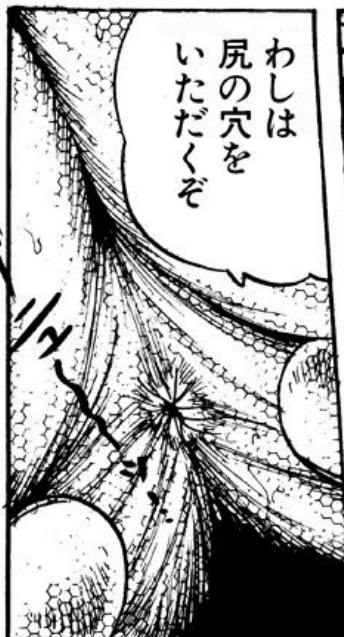
達雄の
母親も、わしの
家内もこの蔵に
来た

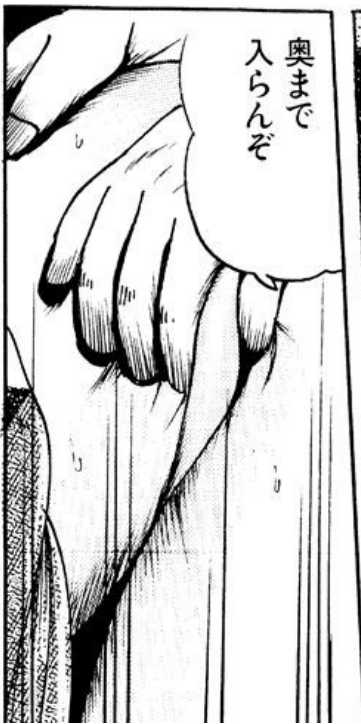
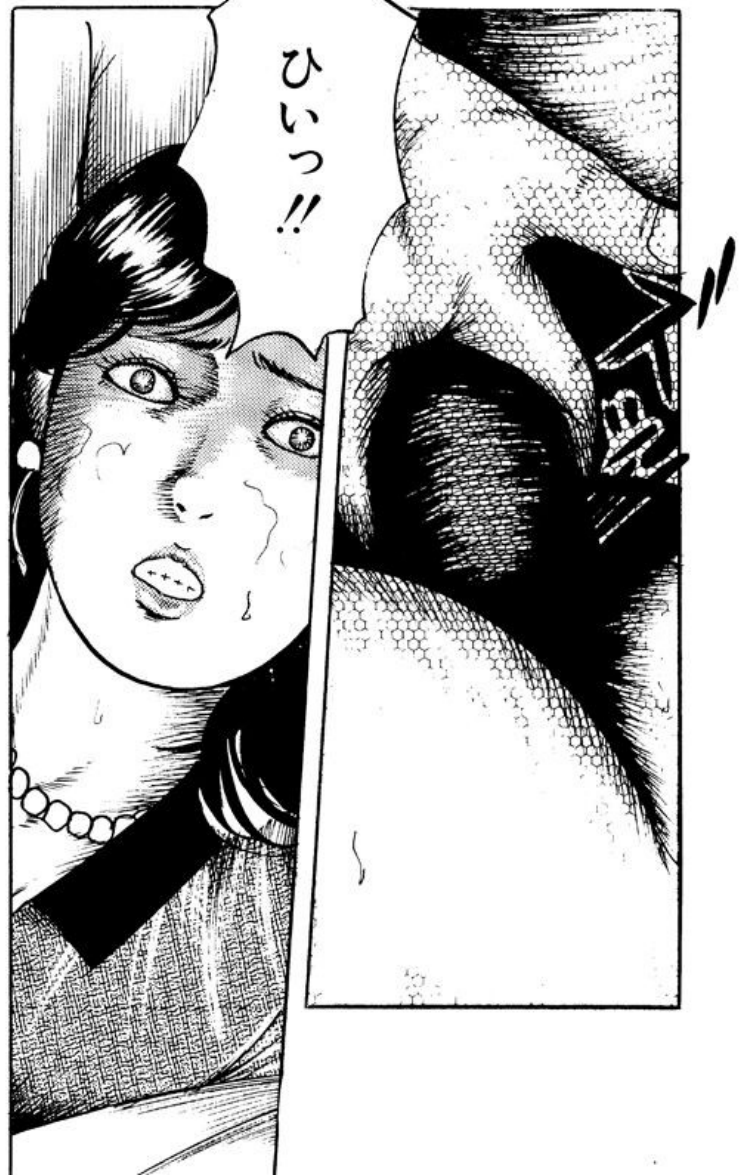
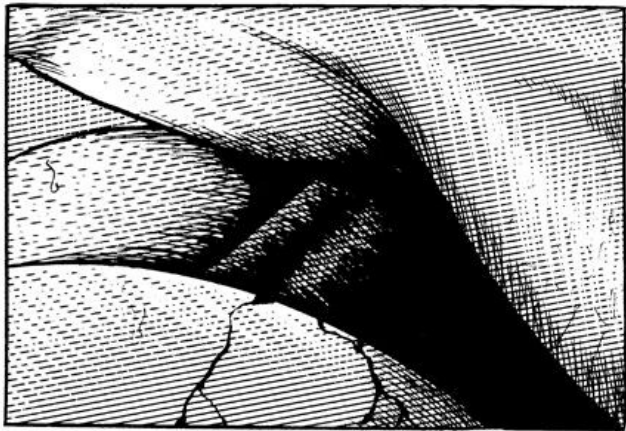
三年前は
従兄の嫁の
弥生だったんだ

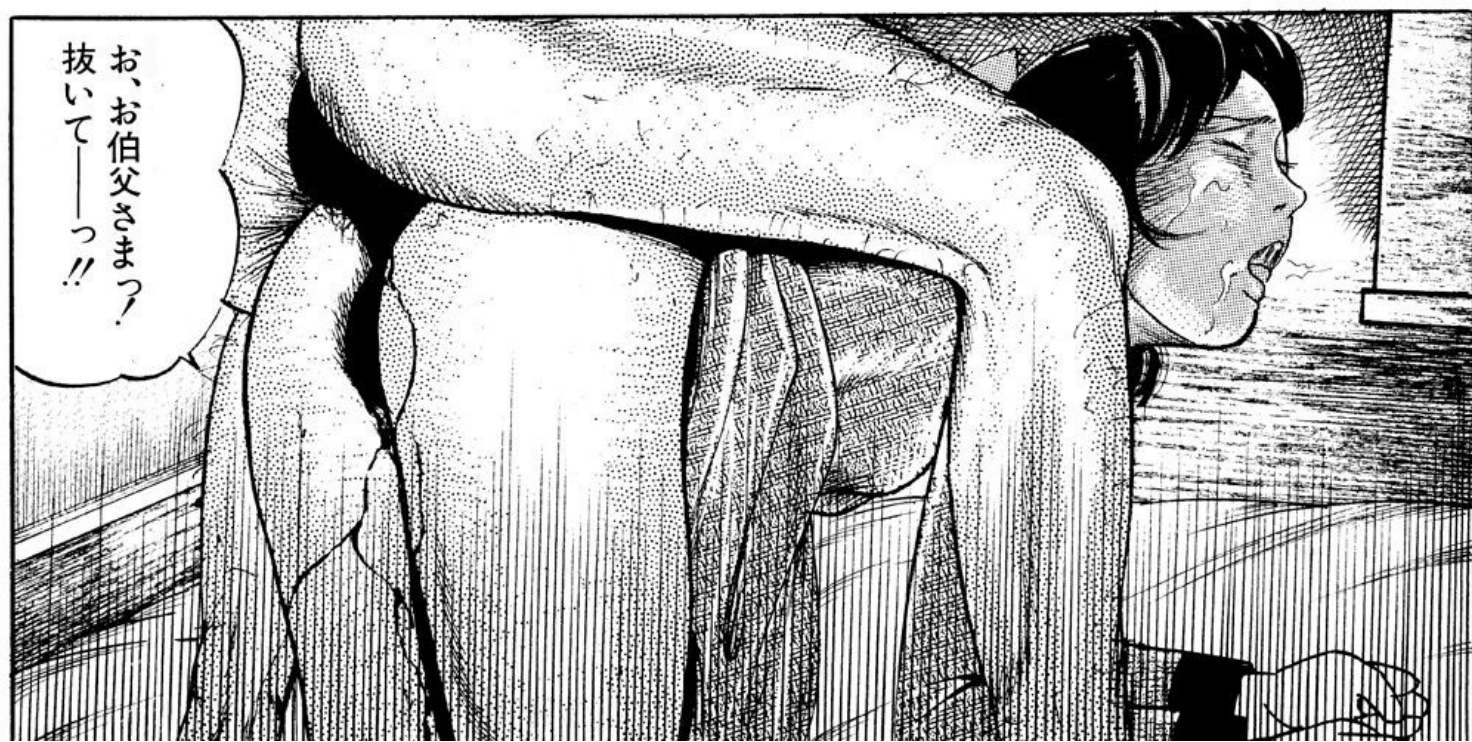
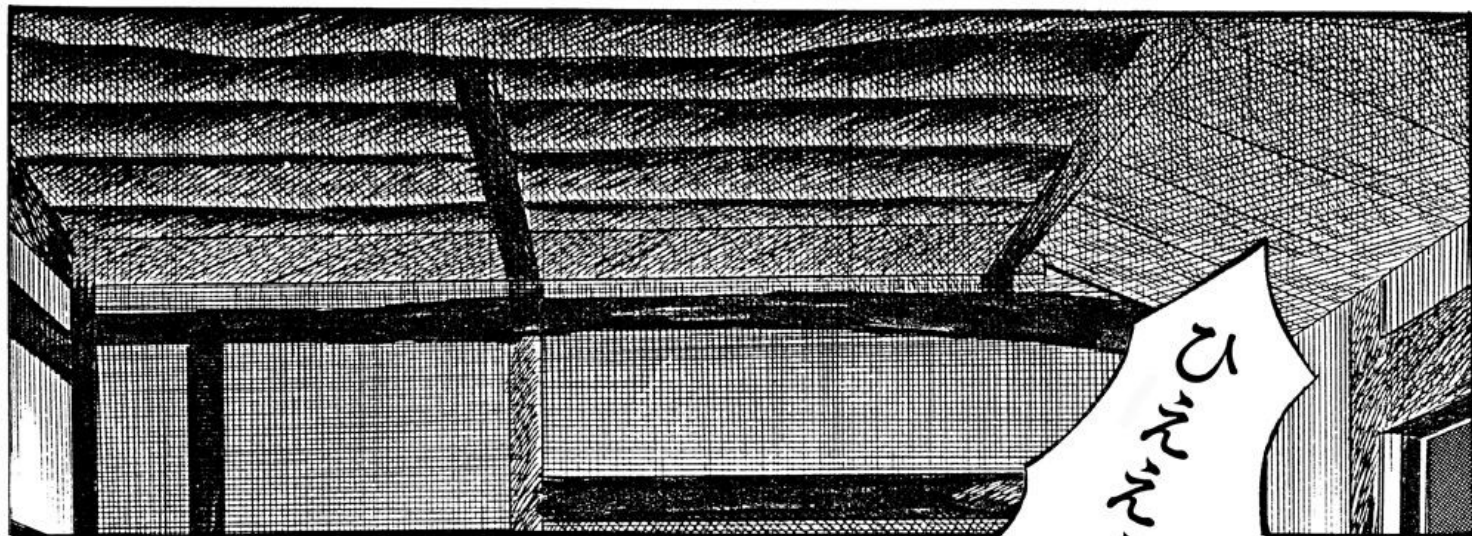


何日で
ここから
出られるかは
お前次第さ



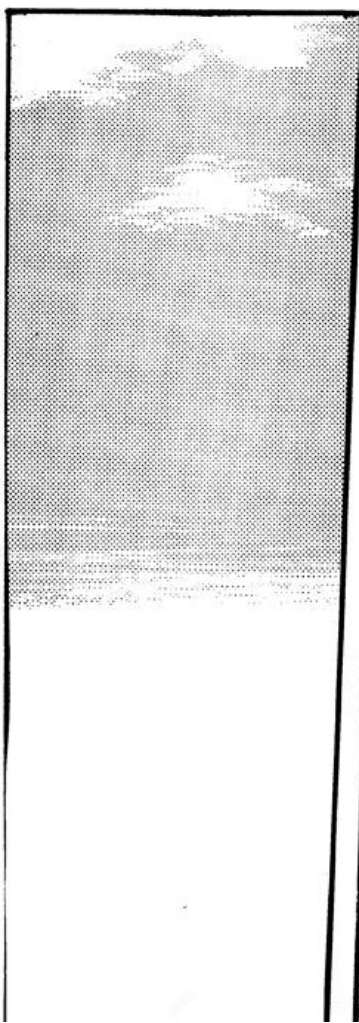
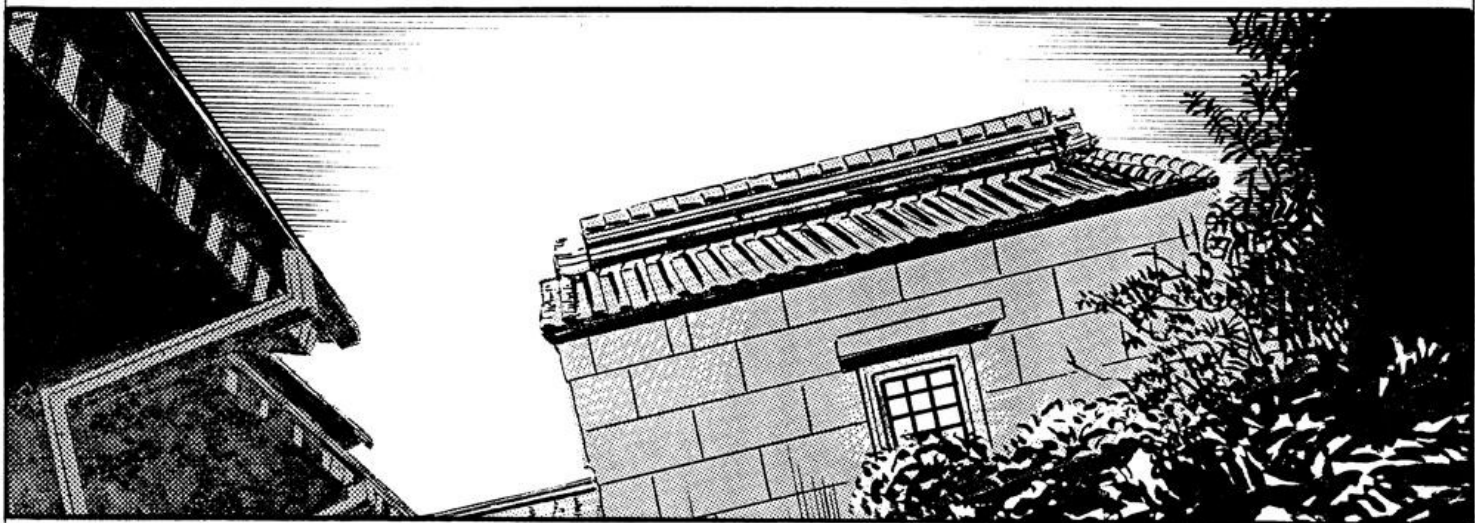
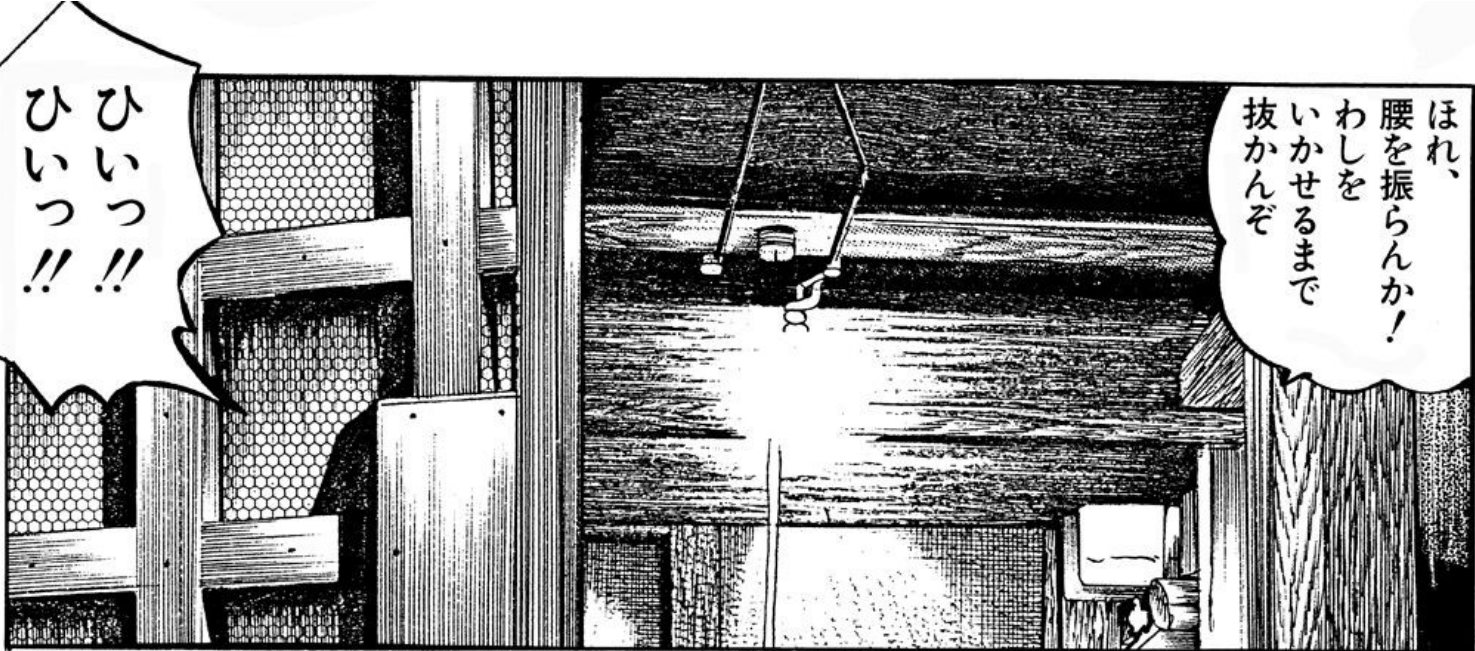


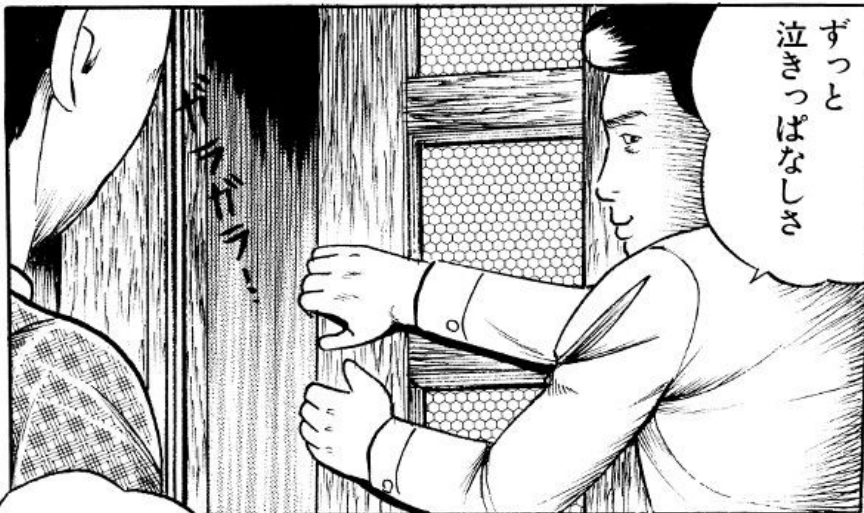




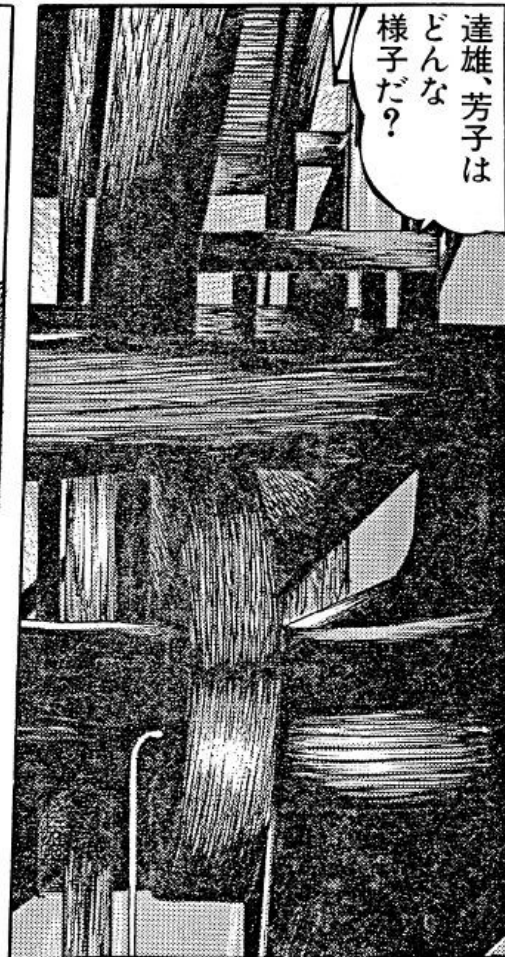








ずっと
泣きっぱなしさ



達雄、芳子は
どんな
様子だ？



無理もないな

花婿の前で
伯父に
犯されただ



こっちは
来ないでっ！



この分じゃ
ハネムーンは
延期に
なりそうだな



どうだ、
桜沢家の嫁に
なれそうか？

三年前、
弥生と達雄の
床入りを
見せられたからな

これで、モトが
とれるぞ

もう、
許してっ！

お願いっ…



あううっ！



尻の穴が
開ききつた
ままじゃ
ないか



しかし、
伯父に派手に
犯られた
もんだな



伯父は
手荒くやったようだが
俺は優しく
扱ってやるよ

いやらしい事は
止めてっ！



お前は
俺の花嫁だぜ



三番目の夫は
どんな事を
するのか、よく
覚えておくんだな



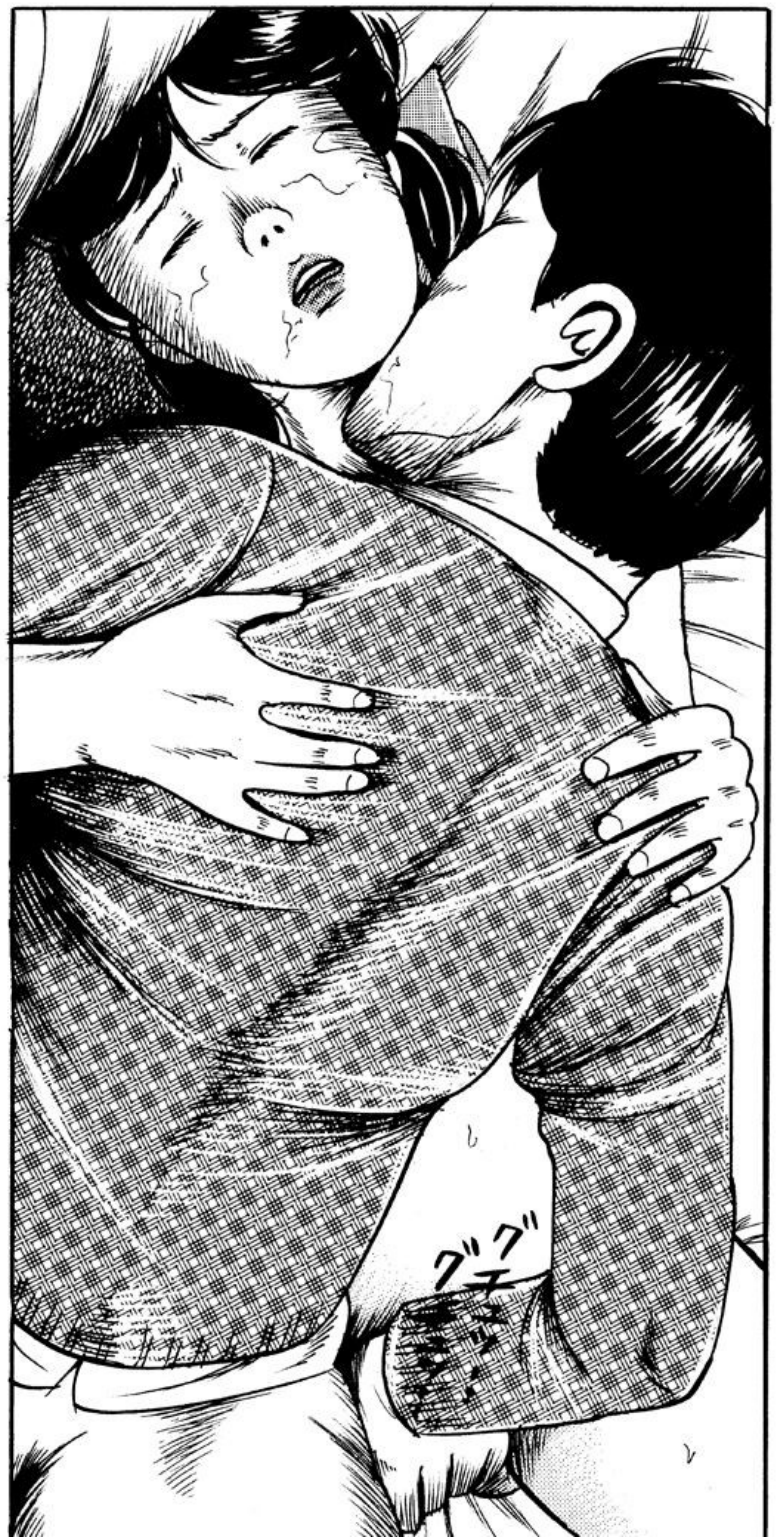
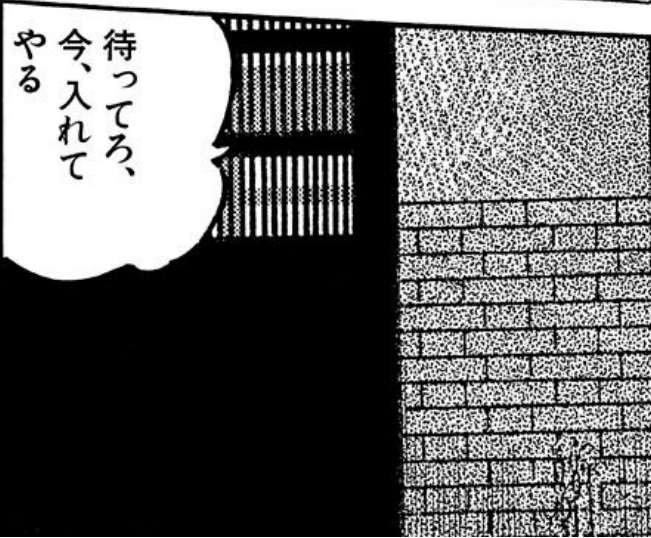
あ、ああっ…



なんだ、もう
ベタベタか

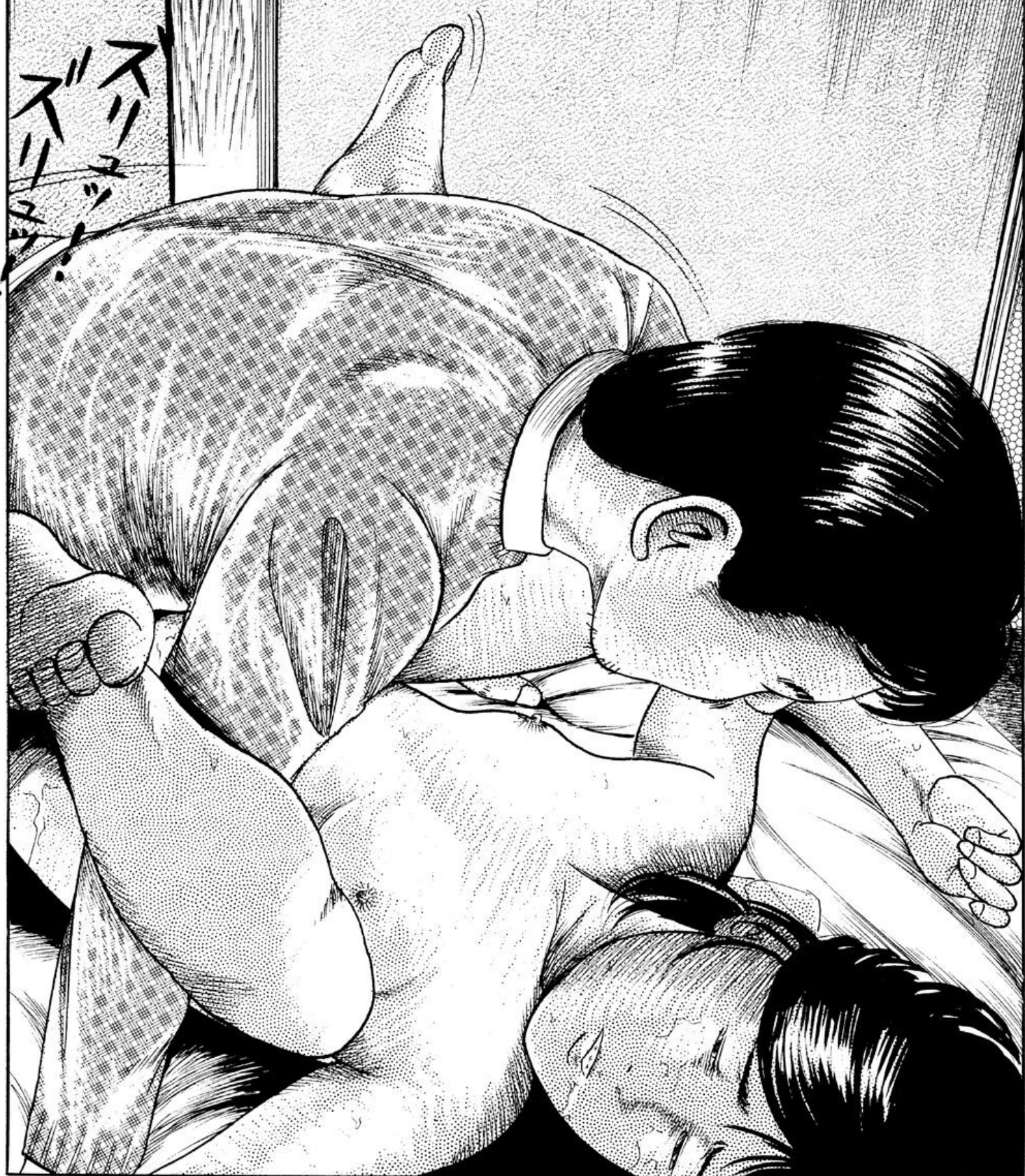


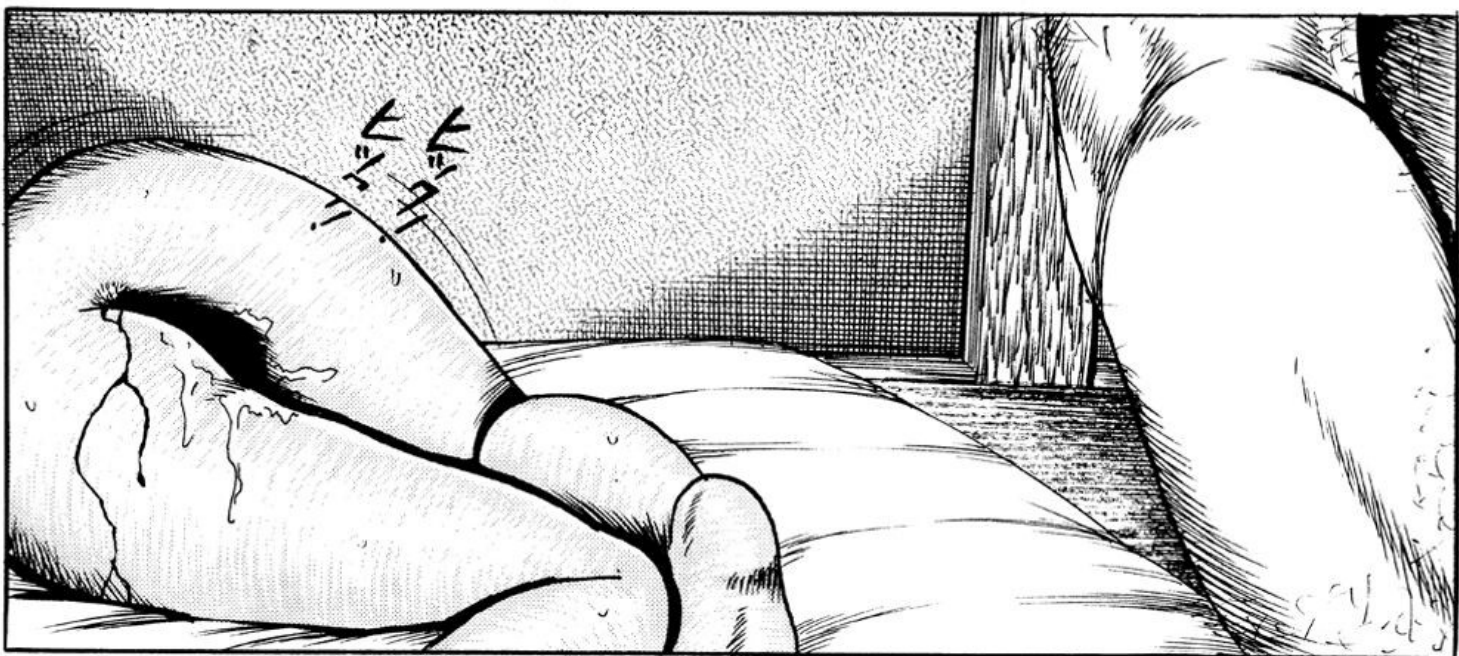
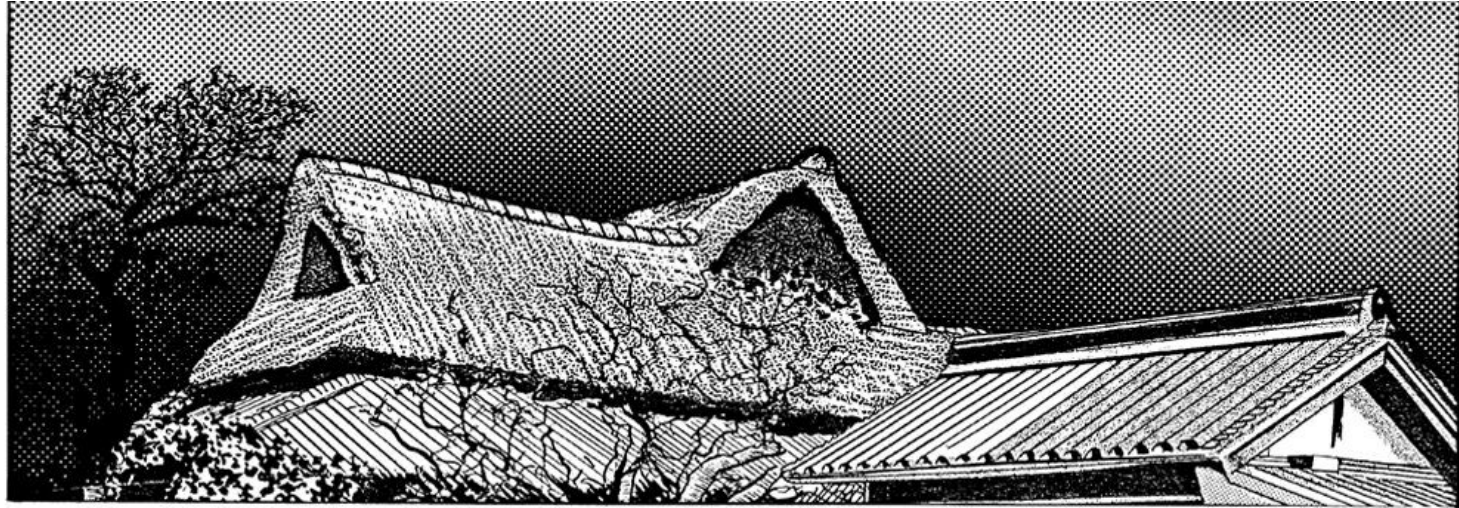
待ってろ、
今、入れて
やる

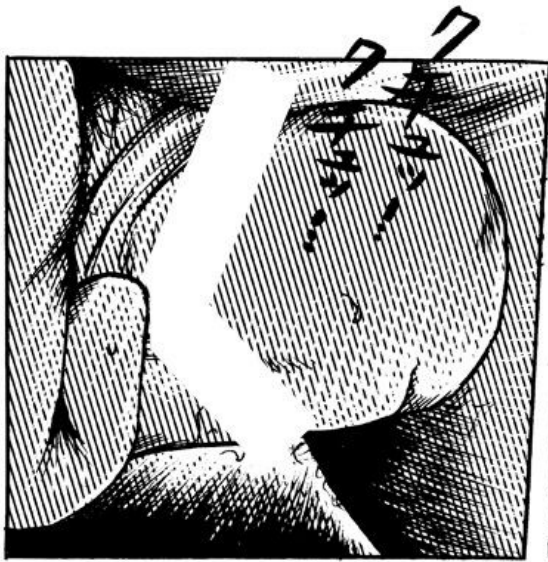




俺は
伯父と違って
一発じゃ
終わらないぜ







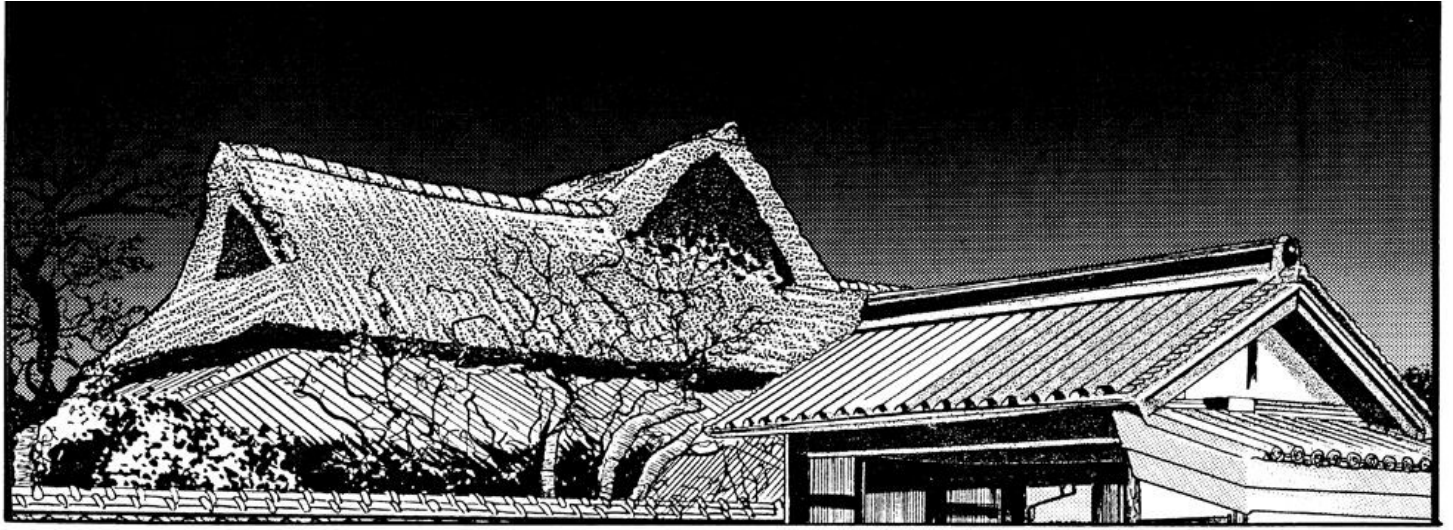
た、助け…



お、お義父さまっ…



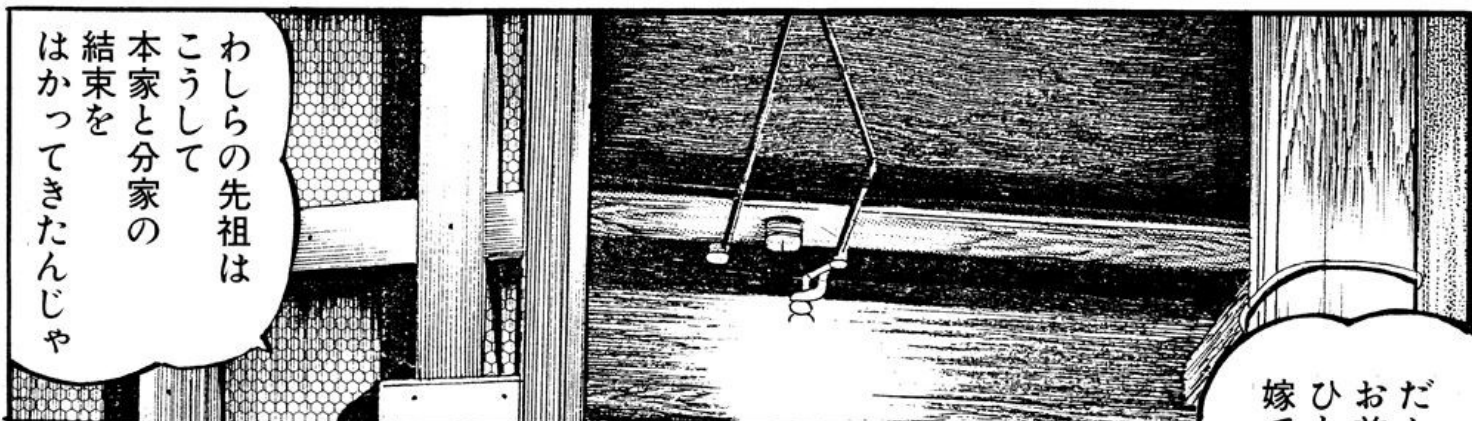
一日も早く
この花嫁蔵から
出られるように
努力するんだな





みんなのものと
なれば
争いも起きん

いいやあッ!!



わしらの先祖は
こうして
本家と分家の
結束を
はかってきたんじゃ

だから
お前も達雄
ひとりの
嫁ではないんだ



こんな結婚は
いやですっ!
離婚させて下さいっ!!

離婚などしてみろ
お前の家も
赤っ恥をかく事
になるんだぞ！

あ、ああっ…



わしは
お前が達雄の
嫁になるのを
楽しみに
待っておったんだ

五つか六つの
頃に
会った時

お前は必ず
美しい女に
育つと思ってた

クニヤ...

お、お義父さまっ！

当時、
仕事に失敗して
困っていた
お前の親父に

達雄との
婚約を
申し込んだ

条件は
無利息無期限で
金を貸すと云う
事だな

うぐぐぐっ!!

云うなれば
お前は金で
買われた花嫁
なんだ

ここを出て
いけば
お前にもどる家
はないんだ

あきらめる
んだな

トチャ
トチャ

ううう...



あ、あああ…



クリちゃんが
むき出した



わしの
テクニクも
まんざらすてた
もんじゃ
ないだろ？



ひっく！
ひっく！

桜沢家の
嫁になるには
女の遊びを
知るのが
一番なんじゃ

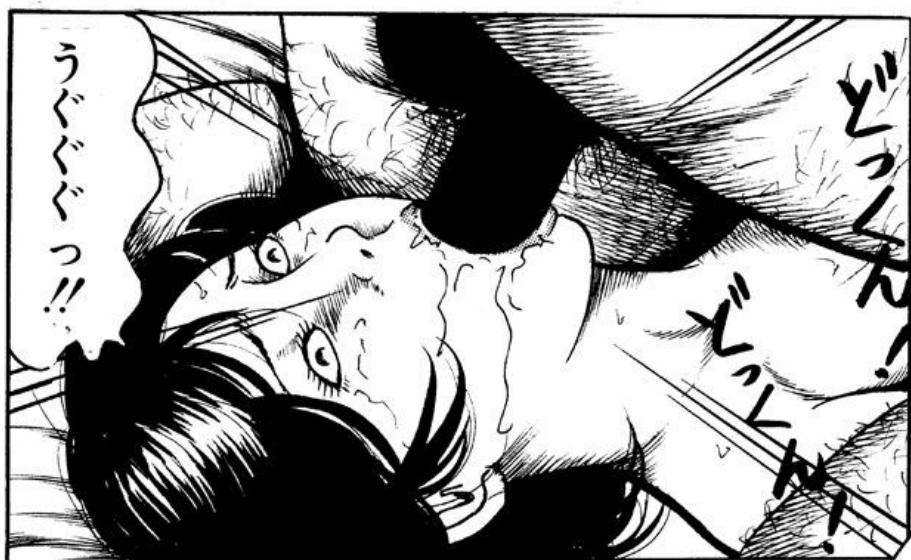




ううっ...

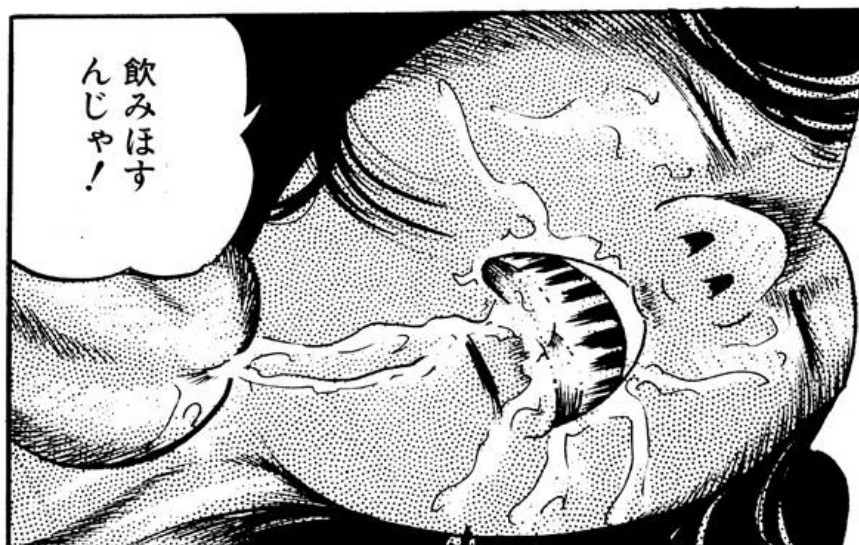
残らず
飲みほせよ

どっくん!

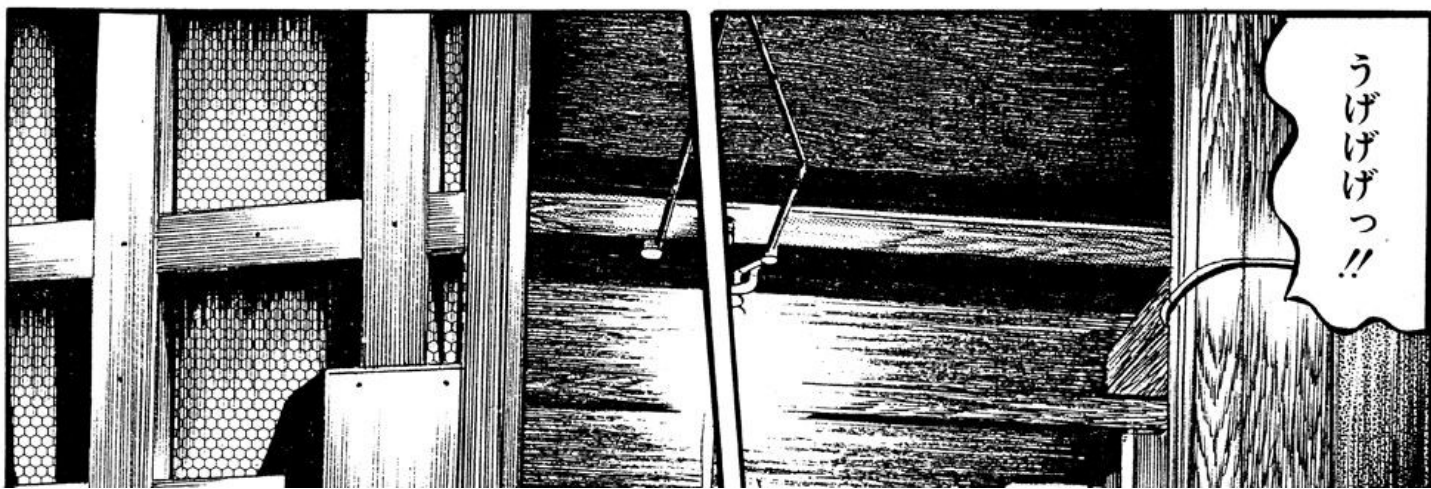


げえええ
っ!!

飲みほす
んじゃ!



うげげげっ!!





芳子、お前は
これで四人の男を
知ったわけだが
誰のが一番
感じる？

わしは
最年長だが

大きなだけは
誰にも
負けんつもりじゃ





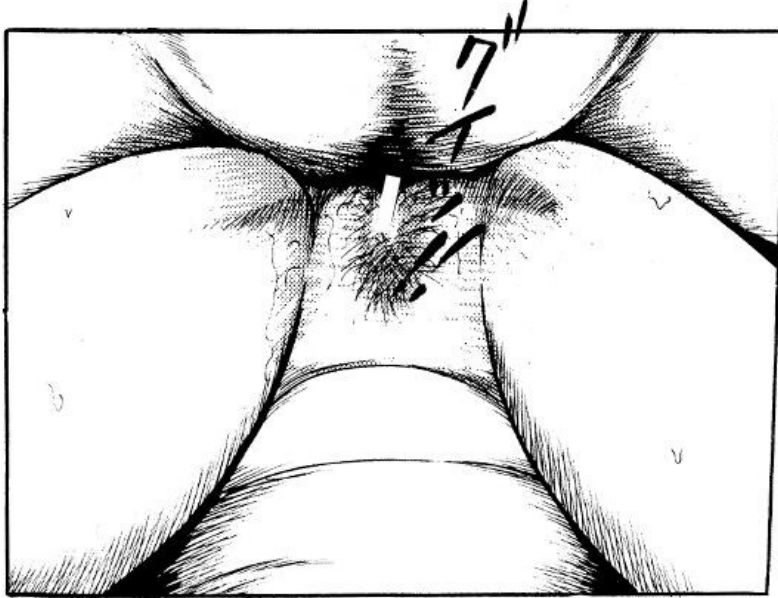
こいつが、
満足出来ないと
言うてな



わしを
離さんのじゃよ

ち、違います…





こいつは
桜沢家の
嫁だ



今度は
三人で楽しませて
やれ



ひええっ!!

もう、いやあ——っ!!



へへへ…



フフフ…

身も心も
とことん
なぶられてこそ
桜沢家の
嫁となるんじゃ





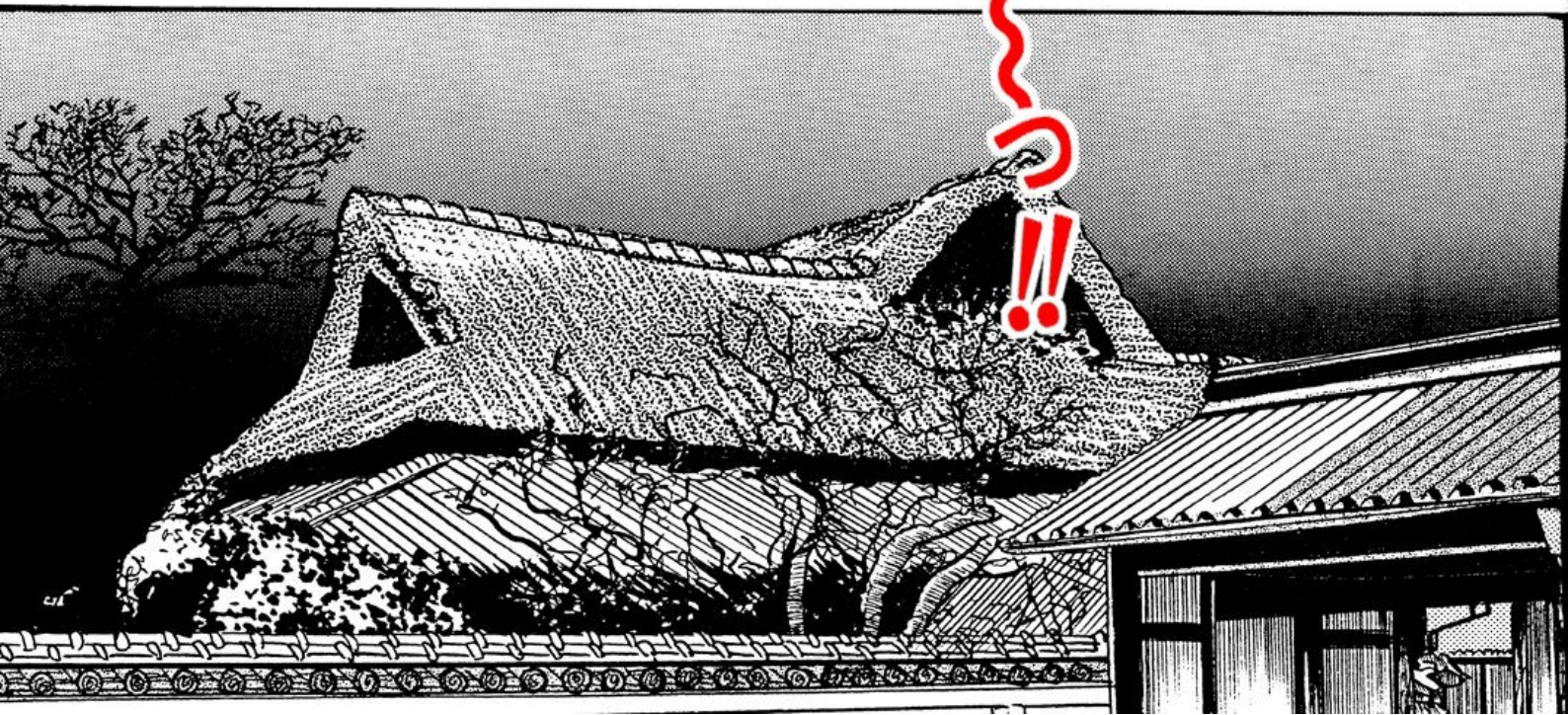


ぐえええええ!!



くうくうくう!!

ゴキッ!!
ゴキッ!!



桜沢家の
狂宴は
数ヶ月以上も
続けられた……

ド
ビ
ビ
ビ
ド
ビ
ビ
ビ
ド
ビ
ビ
ビ

完